

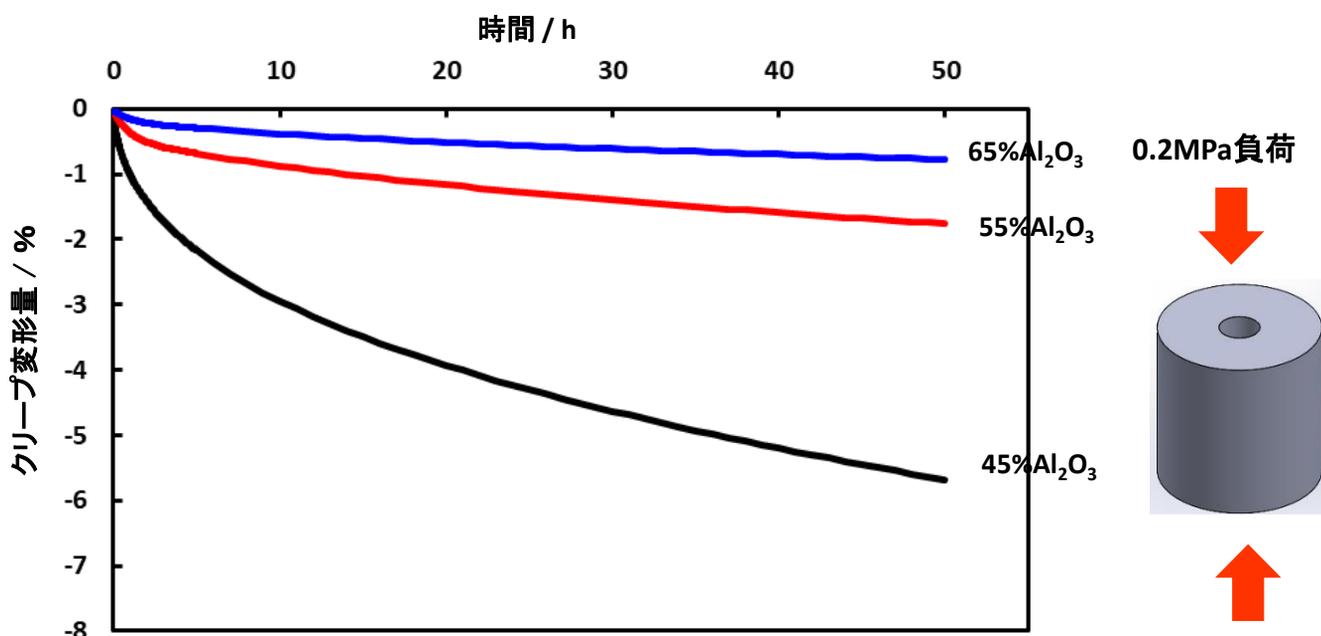
# 熱間クリープ試験装置(JIS R 2658に準拠)



設置 年度	2018年度
型 式	SRC-15-R1型
製 造 所	品川リフラクトリーズ株式会社
仕 様	試験温度：1500℃以下 発熱体：MoSi <sub>2</sub> (カンタスパー) 昇温速度：5℃/min 試料形状：φ50xH50mm、内孔φ12xH50mm 負荷荷重：0.05～1.0 Mpa 保持時間：通常100h以内、100h以上は要相談 雰囲気：大気雰囲気
用 途 特 徴 など	高温で長時間荷重付与した状態での、時間変化に伴う変形量を測定し、試料の熱間クリープ量、荷重下膨張量、を測定する。その他、JIS R 2209に準拠して、大気雰囲気での示差方式による荷重軟化試験も可能。

## 事例紹介

### 高アルミナ質れんがのクリープ挙動



(条件)  
0.2MPaを常温から負荷,  
1400℃で50h保持